



●本文とこの駅は関係ありません

するのもいいかもしれません。

自分の限界もありますから、無理をせず、先生のお人柄が出るようなページを作ることをお勧めします。

おわりに

第1回でも書きましたが、パソコンは1人で本を読んでマスターするものではありません。何人かのパソコン仲間を見つけること、困ったときにいつでも助けてくれる友人をもつことです。自分の学友や歯科医師会の友人に限りません。幸いにしてわれわれの診療室には、いろいろな患者さんが来院します。患者さんのなかにもきっと先生を助けてくれる、一緒に楽しめる人が何人もいるかもしれません。そんな仲間がくれる人柄の先生になることもパソコンマスターの近道かもしれません。

最後に、私のまわりの親しい熟年パソコン先生の紹介をしておきます。

A先生は外国語が堪能で、英語やスペイン語を流暢に話します。60歳の誕生日にインターネットを接続しました。それまで手紙は手書き、海外の友人への連絡は時差を考えながら早朝に電話していました。それから4年経ち、いまでは学会の講師依頼は国内外を問わずメールでやり取りし、海外の大学の研究論文や学会講演情報を事前に調べて同窓会の学術委員会で活用しているほどのメールの達人になりました。

また、趣味の海外旅行ではホテルを予約したり、現地の観光案内を事前に取り込み、大好きな音楽の情報を集めたり、大活躍です。

B先生は趣味の釣りや山登りのホームページを作っています。どこの川でどんな魚を釣ったか、キャンプ



●ピクニックは楽しい、コウエンで飯を食う（C先生談）

のちょっとしたアイデアや自然を大切にするノウハウが満載です。内容が充実していて、ホームページを訪れる人の数を示すアクセスカウンターは筆者のページを軽く抜いてしまいました。思い出せば、4年前の暮れに年賀状印刷がわからなくて、夜中に筆者の家に何度も電話をかけてきたものでした。

C先生は日本中で補綴の講演をやっている有名人。やはり4年前でしたか、お嬢さんと一緒にインターネットをやるためにパソコンを購入しました。原稿を書き、整理し、写真をフィルムスキャナで読み込む。パソコン上で日記もつけ始めました。いまでは講演にパソコンを使い、ビデオプロジェクタから動画付きのすばらしいプレゼンテーションをするまでになりました。

B先生もC先生も50半ばはとうに過ぎています。

どの先生もパソコンの導入時にほんの少しお手伝いしていただけですが、筆者を追い越し、大変有意義に活用されている姿を拝見すると本当にうれしくなります。

4回の連載を書き終わって、読者の方々に一つの風が吹き始めたのを感じます。情報だけがすべてではありませんが、世のなかの流れがもっと身近に感じられるようになれば、より視野が広まり話題も豊富になることでしょう。

パソコンはいわゆる箱物の機械かもしれませんが、これまで連載してきたように、何となく人間的で奥の深いものであることに気付かれた読者も多いのではないのでしょうか。熟年先生であるわれわれにも健康で新しい情報の血液の循環があることを願っています。十分な物質交代（新陳代謝）によってわれわれ歯科医師が、一般社会の一員として精力的に機能することを願ってこの連載を終わらせようと思います。

（今号でこのコーナーは終了します）